

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700109		
法人名	株式会社イービーエーサービス		
事業所名	グループホームいわむらの憩(1F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町730-2		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700109-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いわむらの憩」は古い城下町(岩村城)の一角にあり、地域の方々と触れ合いやすい環境にあります。季節ごとには、城下町ならではのイベントがあり、ご利用者様も地域の方々と共に楽しむことができます。又、商店街での買い物や、奉仕活動への参加等、地域住民の一員となる活動も積極的に行っています。又、噴水のある広々とした庭は安全に散歩していただけようスロープになっており、ご利用者様も戸外に安心して出かけられ、地域の方とも触れ合いやすい環境にあります。今後も職員が一丸となりサービスの向上を目指し、ご利用者様が、住み慣れた地域の中で、ホームの理念でもある「いつも明るく笑顔の絶えない安心出来るグループホーム」でありたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前庭が公園のように整備されている。中央の噴水池を囲む芝生と、特殊舗装の通路が周辺と調和し、さわやかで優美な景観になっている。利用者は、充実した環境の中で、戸外へ自由に出かけ、生き生きと暮らしている。母体法人は、広域に事業を展開し、本部に各種の委員会を組織している。特に、法令遵守委員会や内部監査室、職員のメンタルケアの専門部門もあり、経営の健全化を図っている。管理者・職員は、利用者個々の自立を支え、身体機能の維持向上に成果を上げながら、明るく笑顔の絶えない暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念・介護三大理念・介護の心得・接遇ルールを朝礼にて唱和し共有している。又理念を基本とした実践に向け、日々意見交換・会議での話し合い等サービス向上の取り組みを常に行っている。	理念は、笑顔の絶えない安心な暮らしを掲げ、実践するための心得と接遇を明確にしている。職員は、日々理念に立ち返り、利用者が、住み慣れた地域との関わりを大切にしながら、安心な暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業や避難訓練などにご利用者様と共に地域の一員として参加している。又町内の行事やお祭り等にも参加し、より多くの地域の方との触れ合いが出来る機会を設けている。	地域の一員として、清掃活動や祭りなどの行事に参加している。また、町内の寄り合いや防災会議などに参加し、認知症の理解と連携の意義を伝えている。併設の多目的ホールをイベント会場に提供し、地域住民や子どもたちと触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の活動や行事に御利用者様と共に参加し、交流を深める事で認知症の理解に努めている。地元中学生の職場体験学習で、直接触れ合い認知症の理解と対応方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・自治会長・民生委員・介護相談員・市職員・子育て支援代表の方に委員になって頂き2ヶ月に1回行なっている。利用状況や行事報告等取り組みについての報告又は、行事などに参加して頂き率直なご意見を頂いている。	会議は、定期的開催し、行政や関係者が参加している。現状の報告に次いで、地域との関係づくりや高齢化の課題、認知症予防等を話し合い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着部会・相談員連絡会などに参加し、情報交換や連携を図っている。又市の担当者の方には、直接出向きサービスに関する相談・助言などを頂いて協力関係を築くようにしている。	市主催の、事業者部会や連絡会に参加し、連携している。地域包括支援センターの事例検討会や認知症サポーター養成講座に参加している。困難事例は、その都度、担当者に相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人グループ全体で法令遵守委員会を設置し、年間目標を掲げ身体拘束廃止に向けて積極的に取り組んでいると共に、困難事例など挙げ意見交換を行なっている。玄関の施錠は日中行っていない。	身体拘束や虐待をしないように、周知・徹底している。困難事例は、代替策を工夫し、法令順守に努めている。特に、言葉による抑制や強制をしないように、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に上げられている「介護の心得5か条」を毎朝唱和し、周知徹底している。又虐待防止委員会も設置し学ぶ機会を設けている。虐待が見逃されることが無いよう介護相談員やボランティア等外部による体制づくりも行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会を定期的実施し、成年後見制度・プライバシー保護・人権等について学んでいる。成年後見制度の利用している方はみえないが、必要性がある場合の支援体制作りはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い質問・疑問点があれば納得・同意して頂くよう努めている。又契約内容の変更があった場、説明の機会を設けご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見・要望の受付が出来る様玄関に意見箱を設置している。又ご家族様の来所時には、意見・要望を都度聞くよう心掛けています。又介護相談員の受け入れや、外部者との交流で言い易い環境づくりをしている。	家族の来訪時や家族会で、職員から問いかけ、要望等を引き出している。本人のやりたいことや、やりがいが持てるような暮らしを支えてほしいなど意見があり、速やかに対応をしている。	毎月、ホーム便りで暮らしの様子を伝えていている。さらに、相互理解と信頼関係を深めるための努力に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表に直通のホットラインを設け、末端までの意見がトップに上がっていきけるようなシステムになっており、速やかに対応出来る体制を整えている。又全体会議・個人面談・日々のコミュニケーションの中での意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	全体会議や個人面談で、職員から意見や提案を受け入れている。重度者の身体機能改善策や勤務調整、職員のメンタルケア支援等を話し合い、働きやすい職場環境に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度での評価や有資格者などに対しての能力に応じたやりがいをもって働ける環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な新人研修、リーダー研修を行なっている。又経験年数や個人の力量にあった研修や資格取得に向けての情報提供及び参加を促して能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催する意見交換会に出席し情報を得サービス向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、共感的な姿勢でご利用者様が求めていることや不安、本人の置かれている状況等を十分に把握し、少しでも安心を確保し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時2名の職員で訪問し、ご利用者様とは別で面談を行い家族の立場になって傾聴し、今後のサービスに対する不安や希望など、思いが表出しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時ご本人・ご家族様の意向聞き、現状を把握した支援を見極め的確なサービス内容を提案していくよう努めている。又地域のケアマネージャーとも密に連携をとり今までの現状把握に協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の大先輩という考えを職員が共有しており、昔からしてきたことや、出来ることを、職員が教えていただくという場面を多く作り、感謝の言葉をかけるなど、一方的ではない関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のホームお便りに近状報告を添えたり、日常の面会時や電話にて、ご本人の思いを伝えながら、ご家族様の思いも受け止め共にご利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親しい友人に気軽に電話が掛けられる環境を整えたり、近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。	知人・友人に気楽に来てもらえるように、呼びかけている。地元の伝統行事や集会場に出かけたり、懐かしい場所へドライブをしている。毎月訪れる2名の介護相談員を待ち望んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性について職員が情報共有し、より良い関係が築けるよう職員が調整役となって支援している。又廊下にソファを置き気の合った方同士が他者を気にすることなく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、これまでの生活が損なわれないよう支援内容・注意点などの情報提供し連携を図っている。契約終了後も出来ることがあれば相談・支援の協力の意思をご家族様に伝えるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、ゆっくり話を聞くなど思いが表出しやすい環境を整えている。意思伝達が困難なご利用者様は、表情・行動・生活歴などを元に把握するよう努めている。	日常の場面で、表情や言動から思いを把握している。また、意外性など気づいたことは、全員で共有している。意思伝達が困難な人は、生活歴や家族から情報を得て、思いに添った暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・センター方式・アセスメント表などを活用し、ご利用者様・ご家族様・入所前のケアマネージャーからの生活歴・これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようにケア記録や申し送り等で共有し、その時の心身の状況把握などに情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご本人様・ご家族様から、要望や思いを聞き介護計画に取り入れるよう努めている。フロア会議でケア内容を検討し職員の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を聴き、また、職員会議で支援内容を検討し、介護計画に取り入れている。日々の介護記録や支援経過をモニタリングして、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援が出来ているか、日々の様子や気づきなど個別記録に記入し、申し送り等で、情報を共有しながら、ケア会議等で意見交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応、又は入院中の対応は、ご利用様ご家族様の希望を踏まえ出来る限り希望に沿った柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方・子育て支援の親子の訪問をして頂き地域の一人としての取り組みをしている。又理美容の訪問で散髪などの支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際は同意の下ホーム提携医に変更しているが、ご家族様・ご利用様のご希望があれば、かかりつけ医での受診をし、場合によっては通院の支援をしている。受診の際情報提供書にて密な連携をし、適切な医療が受けられるようにしている。	入居時に、家族の意向を確認し、かかりつけ医を協力医に変更している。他に、訪問医と提携し、月に2回の診察を受けている。通院受診は、緊急時や家族の都合によって、職員が同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常にご利用者様の健康管理や相談・助言を行っている。又月に2回は医療連携会議での医師・他の看護師からの助言を受け適切な対応が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中1週間1回から2回来院し、医療機関の医師・看護師・相談員との情報交換をし、早期退院が出来る様に努めている。又医師からご家族様への状態説明にも同席し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時や段階的にご利用様やご家族様の意向を踏まえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるようその都度意思確認をし、記録に残して全職員で共有するよう努めている。又意思確認書を作成し、ご家族様の意向を文書にて確認している。	重度化や終末期の対応は、事業所の能力に応じた支援を提示し、家族と「意思確認書」を交わしている。終末期は、医師の意見や家族の意思を再確認し、支援体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士による救命救急講習の实地や看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を实地し、適切な対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の实地や災害時の訓練等勉強会など定期的に行い職員の意識を高める取り組みをしている。又災害時の備蓄品の確保もしている。運営推進会議等を活用し、助言・協力をお願いしている。	年に2回、消防署の立会いで防災訓練を実施している。初期消火や避難誘導、通報等、夜間も想定している。町内の自主防災隊と、協力体制づくりについて要請している。備蓄は、相当量を確保している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や委員会をおこない身体拘束・虐待防止・権利擁護等について毎月勉強をしている。また、ご利用者様の誇りや自尊心を侵さない介護を出来るように努めている。	個性を尊重し、自尊心を傷つけない態度や言葉かけを行っている。接遇事項を明示し、権利擁護について学習を重ねている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重した言葉掛けをおこない、自己決定が出来るように努めている。又意思表示の困難な方については、筆談したり、表情を汲み取り本人の意思に添うよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全を確保した上でご利用者様一人ひとりのペースに合わせ、やりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替時にはご利用者様が自己決定が出来るよう、意思を確認しながら支援している。髭剃りはカミソリや電動式等ご利用者様の慣れたもので対応している。洗顔も声掛けをするが本人の意思に添っておこなっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	翌日のメニューを毎日ご利用者様に書いていただきながら献立について会話をしたり、ご利用者様に応じて食事の準備を手伝ってもらっている。季節料理には、昔の話を交えながら会話し自然と発語が出るよう支援している。	近所から旬の野菜が頻繁に届けられる。また、自家栽培の野菜とあわせて調理をしている。職員も同じテーブルで食べ、楽しく和やかな時間となっている。テレビを消して、軽音楽や昔の歌を流している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のご利用者様に応じて出し、栄養士による献立表にて食事を作っている。又水分量の少ない方にはご利用者様の好きな物を提供し、摂取してもらえよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様が口腔ケア出来るよう声掛け、介入をしている。自己にて出来る方は見守り、出来ない方には一部介助を行っている。夜間には義歯洗浄剤による洗浄支援もこなっている。	

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様自立支援を行っている。又、誘導・介入時には御利用者様の自尊心を守りながら支援できるよう心掛けている。	細かに声をかけ、トイレへ誘導している。個々の身体機能の維持向上に努め、自立度が改善し、日中はトレーニングパンツで過ごしている。排泄誘導や介助時は、自尊心を損ねないように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アルカリイオン水や牛乳を飲んで頂いたり、便秘が減るよう対応している。午前・午後の体操や散歩の運動も心がけ、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に声掛けしその日の気分やタイミングに合わせながら個々に沿った入浴できるようにしている。又入浴前にはバイタルチェックをし、安全・安楽に入浴できるよう支援している。	利用者の希望に沿って、喜ばれる入浴を支援している。その日の状態やタイミングに合わせるなど柔軟に対応し、介助者は同性を基本に、また、重度者は、隣接施設の特殊浴で支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にご利用者様の希望や体調に合わせ、休息できるよう環境整備をしている。就寝前には一緒にお茶を飲んだり、本人のタイミングに合わせて就寝できるよう配慮している。又、室温調節・照明調節にて安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更や、状態の変化がある場合には、きちんと記録に残し、申し送り等で連携を図っている。服用時には必ず職員2名にて日付、錠数等確認しながらおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや家事の手伝い等ご利用者様の生活歴などを把握し、ご利用者様に適した役割が持てるように支援している。又ご本人の希望により買い物や外出支援をし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って喫茶店に出掛けたり、商店街へ買い物に出掛けるなどの支援をしている。又、日常的にも、庭での散歩や街中への散歩もおこなっている。	広い中庭での散歩や外気浴を日常的に行っている。また、町並みを散策したり、喫茶店や買い物、イベントなどへも出かけている。普段行けない、花見などの行楽地へは、年計画の中で、実施している。	

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が個人で財布を持っている方については、定期的に本人と一緒に確認をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて電話にて連絡が取れるよう支援している。又希望によって、手紙を書いて送る支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにご利用者様に折り紙等で作品を作り飾りつけたり、花を生けたり、季節を感じていただけるように支援している。又、行事等の写真を貼り、その時のことを振り返っていただけるよう支援している。	居間や廊下の壁面に、折り紙、貼り絵、塗り絵の作品を飾っている。行事の写真や季節の花をかざり、生活感や季節感がある。窓越しに住宅や山並みが広がり、居心地よく過ごしている。共用の生活空間である居間が狭く、構造上の課題となっている。	生活空間を拡張するため、改修に向けて検討を行っている。その進展に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、好きな時に気の合った方と話ができるよう共用スペースを作っている。又、違うユニットに行き、お茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などをご家族様に説明をし、協力を得て家から馴染みの物を持ちこんでいただくよう支援している。又ご家族様の写真を置いたり、ご本人様の作品を飾ったりしている。	居室には、馴染みのものを配置している。手づくり作品やぬいぐるみ、テレビ、衣類かけ、家族の写真などを飾り、安心して過ごしている。表札は、花模様の額に入れて目線に表示し、自分の部屋を認識している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等理解しやすいようプレートを貼ったり、一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしてして環境整備に日々努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700109		
法人名	株式会社 イービーエーサービス		
事業所名	グループホーム いわむらの憩(2F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町若宮730-2		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念・介護三大理念・介護の心得・接遇ルール・認知症ケアの基本を朝礼にて唱和し共有している。又理念を基本とした実践に向け、日々意見交換・会議での話し合い等サービス向上の取り組みを常に行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業や避難訓練などにご利用者様と共に地域の一員として参加している。又町内の行事やお祭り等にも参加し、より多くの地域の方との触れ合いが出来る機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の活動や行事にご利用者様と共に参加し、交流を深める事で認知症の理解に努めている。地元中学生の職場体験学習で、直接触れ合い認知症の理解と対応方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・自治会長・民生委員・介護相談員・市職員・子育て支援代表の方に委員になって頂き2ヶ月に1回行なっている。利用状況や行事報告等取り組みについての報告又は、行事などに参加して頂き率直なご意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着部会・相談員連絡会などに参加し、情報交換や連携を図っている。又市の担当者の方には、直接出向きサービスに関する相談・助言などを頂いて協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人グループ全体で法令遵守委員会を設置し、年間目標を掲げ身体拘束廃止に向けて積極的に取り組んでいると共に、困難事例など挙げ意見交換を行なっている。玄関の施錠は日中行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に上げられている「介護の心得5か条」を毎朝唱和し、周知徹底している。又虐待防止委員会も設置し学ぶ機会を設けている。虐待が見逃されることが無いよう介護相談員やボランティア等外部による体制づくりも行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会を定期的実施し、成年後見制度・プライバシー保護・人権等について学んでいる。成年後見制度の利用している方はみえないが、必要性がある場合の支援体制作りはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い質問・疑問点があれば納得・同意して頂くよう努めている。又契約内容の変更があった場、説明の機会を設けご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見・要望の受付が出来る様玄関に意見箱を設置している。又ご家族様の来所時には、意見・要望を都度聞くよう心掛けている。又介護相談員の受け入れや、外部者との交流で言い易い環境づくりをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表に直通のホットラインを設け、末端までの意見がトップに上がっていけるようなシステムになっており、速やかに対応出来る体制を整えている。又全体会議・個人面談・日々のコミュニケーションの中での意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度での評価や有資格者などに対しての能力に応じたやりがいをもって働ける環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な新人研修、リーダー研修を行なっている。又経験年数や個人の力量にあった研修や資格取得に向けての情報提供及び参加を促して能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催する意見交換会に出席し情報を得サービス向上に生かしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、共感的な姿勢でご利用者様が求めていることや不安、本人の置かれている状況等を十分に把握し、少しでも安心を確保し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時2名の職員で訪問し、ご利用者様とは別で面談を行い家族の立場になって傾聴し、今後のサービスに対する不安や希望など、思いが表出しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時ご本人・ご家族様の意向聞き、現状を把握した支援を見極めた確なサービス内容を提案していくよう努めている。又地域のケアマネージャーとも密に連携をとり今までの現状把握に協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の大先輩という考えを職員が共有しており、昔からしてきたことや、出来ることを、職員が教えていただくという場面を多く作り、感謝の言葉をかけるなど、一方的ではない関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のホームお便りに近状報告を添えたり、日常の面会時や電話にて、ご本人の思いを伝えながら、ご家族様の思いも受け止め共にご利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親しい友人に気軽に電話が掛けられる環境を整えたり、近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性について職員が情報共有し、より良い関係が築けるよう職員が調整役となって支援している。又廊下にソファを置き気の合った方同士が他者を気にすることなく過ごせるよう配慮している。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、これまでの生活が損なわれないよう支援内容・注意点などの情報提供し連携を図っている。契約終了後も出来ることがあれば相談・支援の協力の意思をご家族様に伝えるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、ゆっくり話を聞くなど思いが表出しやすい環境を整えている。意思伝達が困難なご利用者様は、表情・行動・生活歴などを元に把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・センター方式・アセスメント表などを活用し、ご利用者様・ご家族様・入所前のケアマネージャーからの生活歴・これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようケア記録や申し送り等で共有し、その時の心身の状況把握など常に情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご本人様・ご家族様から、要望や思いを聞き介護計画に取り入れるよう努めている。フロア会議でケア内容を検討し職員の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援が出来ているか、日々の様子や気づきなど個別記録に記入し、申し送り等で、情報を共有しながら、ケア会議等で意見交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応、又は入院中の対応は、ご利用者様ご家族様の希望を踏まえ出来る限り希望に沿った柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方・子育て支援の親子の訪問をして頂き地域の一員としての取り組みをしている。又理美容の訪問で散髪などの支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際は同意の下ホーム提携医に変更しているが、ご家族様・ご利用様のご希望があれば、かかりつけ医での受診をし、場合によっては通院の支援をしている。受診の際情報提供書にて密な連携をし、適切な医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常にご利用者様の健康管理や相談・助言を行っている。又月に2回は医療連携会議での医師・他の看護師からの助言を受け適切な対応が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中1週間1回から2回来院し、医療機関の医師・看護師・相談員との情報交換をし、早期退院が出来る様に努めている。又医師からご家族様への状態説明にも同席をし連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時や段階的にご利用様やご家族様の意向を踏まえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるようその都度意思確認をし、記録に残して全職員で共有するよう努めている。又意思確認書を作成し、ご家族様の意向を文書にて確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士による救命救急講習の現地や看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を実地し、適切な対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の現地や災害時の訓練等勉強会など定期的に行い職員の意識を高める取り組みをしている。又災害時の備蓄品の確保もしている。運営推進会議等を活用し、助言・協力をお願いしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や委員会をおこない身体拘束・虐待防止・権利擁護等について毎月勉強をしている。また、御利用者様の誇りや自尊心を侵さない介護を出来るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重した言葉掛けをおこない、自己決定が出来るように努めている。又意思表示の困難な方については、筆談したり、表情を汲み取りご利用者様の意思に添うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全を確保した上でご利用者様一人ひとりのペースに合わせ、やりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替時にはご利用者様が自己決定出来るよう、意思を確認しながら支援している。髭剃りはカミソリや電動式等ご利用者様の慣れたもので対応している。洗顔も声掛けをするがご利用者様の意思に添っておこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせてメニューを変えている。ご利用者様に依って食事の準備を手伝ってもらっていながら、季節料理に昔の話を交えながら会話し自然と発語が出るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はご利用者様に依って出し、栄養士による献立表にて食事を作っている。又水分量の少ない方には本人の好きな物を提供し、摂取してもらえるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様が口腔ケア出来るよう声掛け、支援をしている。自己にて出来る方は見守り、出来ない方には一部介助を行っている。夜間には義歯洗浄剤による洗浄支援もこなっている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様自立支援を行っている。又、誘導・介入時にはご利用者様の自尊心を守りながら支援できるよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アルカリイオン水や牛乳を飲んで頂いたり、便秘が減るよう対応している。午前・午後の体操や散歩の運動も心がけ、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に声掛けしその日の気分やタイミングに合わせて個々に沿った入浴できるようにしている。又入浴前にはバイタルチェックをし、安全・安楽に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご利用者様の希望や体調に合わせて、休息できるよう環境整備をしている。就寝前には一緒にお茶を飲んだり、ご利用者様のタイミングに合わせて就寝できるよう配慮している。又、室温調節・照明調節にて安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更や、状態の変化がある場合には、きちんと記録に残し、申し送り等で連携を図っている。服用時には必ず職員2名にて日付、錠数等確認しながらおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや家事の手伝い等ご利用者様の生活歴などを把握し、ご利用者様に適した役割が持てるように支援している。又ご利用者様の希望により買い物や外出支援をし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って喫茶店に出掛けたり、商店街へ買い物に出掛けるなどの支援をしている。又、日常的にも、庭での散歩や街中への散策もおこなっている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様が個人で財布を持っている方については、買い物時に使っている。又定期的にご利用様と一緒に確認をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様には、充電の管理や発信の援助をしている。ご利用者様の希望に応じて連絡が取れるよう支援している。又希望によって、手紙を書いて送る支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにご利用様に折り紙等で作品を作り飾りつけたり、花を生けたり、季節を感じていただけるように支援している。又、行事等の写真を貼り、その時のことを振り返っていただけるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、好きな時に気の合った方と話ができるよう共用スペースを作っている。又、違うユニットに行き、お茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などをご家族様に説明をし、協力を得て家から馴染みの物を持ちこんでいただくよう支援している。又ご家族様の写真を置いたり、ご利用者さま様の作品を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等理解しやすいようプレートを貼ったり、一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をして環境整備に日々努めている。		